

平成 30 年度 出前懇談会 会議録

地 区	咸宜 地 区	市長・副市長の出席	市長
日 時	平成 30 年 11 月 8 日 (木) 19:00～20:30	場 所	咸宜公民館 集会室
地 区 参加者	井上 中央通 1 自治会長 (地区理事)、 後藤 港町自治会長、	平嶋 淡窓町自治会長、 吉田豆田第一自治会長	計 23 名
担 当 グ ル ー プ	リーダー	江藤 上下水道局長	副リーダー 河野 総務課長
	プレゼン テーター	石橋 観光課長	連絡調整担当 中嶋 ひた暮らし推進室長
	書 記	岩尾 監査委員事務局長、江田 教育総務課長 早川 あまがせ保育園長	
	構成員	佐々木 市民課長 (司会進行)	
	その他		
議 題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		石橋 観光課長
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		石橋 観光課長

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(意見)

- ・観光課長の説明内容で、「H29年九州北部豪雨」において市の取組、市民の取組、双方の取組はこれで良いと思う。
- ・昨年の災害を踏まえて感じたことは、事前対策と発生時の対応と発生後の対応だ。
- ・事前対策は、特にお願いしたい。
- ・3年前、花月川が氾濫し、淡窓町、豆田町、港町は床上・床下浸水の被害に見舞われた。日田市内で世帯数からいけば甚大な被害だ。花月川は国土交通省の管轄で、3年前に工事はおこなっているが、やり直している。
- ・また、秋吉病院前の非常階段に氾濫した水がぶつかり、浸水の原因になるため、3年前に撤去を要請していたができておらず、昨年もお願した。このような現状を踏まえて、事前対策としてしっかりやってほしいと思う。

- ・城内川が氾濫、豆田地区が浸水したのは、排水設備を整えないで住宅建設が行われたことによる。事前対策の中で城内川の河川の改修をきちんとやってもらいたい。
- ・昨年の水害を踏まえて、花月川や丸山町に緊急の排水ポンプを3～4台設置しているが、それで守られるのか？
- ・日田市の助成金を見直して、防災に関する防災倉庫は市が設置すべき。地区では財政的に難しいところもある。
- ・ハザードマップを作成しているが、実際に緊急時の避難の際、情報伝達はできるのか？職員態勢は大丈夫か？
- ・発生後の復旧対応については、現場の長が指揮を取り、適切な対応ができるように職員を統括してほしい。信頼できる職員であってほしいと思う。
- ・災害が起きないための河川対策、起きたときの応急措置、防災倉庫の設置等、大事なところは市が積極的にやってもらいたい。
- ・復旧ができるための市の窓口の一本化を望む。

(回答)

- ・事前対策という中で、河川改修については200～300億のお金がかかる。簡単には実行できない。
- ・市が管理する水路に関しては、基準に基づいた大きさを造られている。しかし、それでは耐えられない降雨の状況になっている。一定の降雨量に対応はしている。これから何十年かかけて整備することになるだろう。
- ・内水をどうやって流域に排出するかが大きな課題。河川の流量を上げないと難しいだろうが、お金・時間が必要となる。
- ・連絡手段として、7億ほど高額な経費がかかるが、各戸に防災ラジオの設置を考えている。ラジオに関しては自己管理となる。
- ・災害対応には抜本的に見直す事が多い。復旧窓口の一本化等、出来るところから取り組みたい。
- ・災害時、不便や不満もあると思うが、関係機関も動いている。今後の自然災害の大きな被害を考えたととき、命を守っていただく、これが最優先課題となる。

(意見)

- ・中城町と淡窓町の切れ目のところの道路。昨年の水害のとき、通行止めをしてもらえず、水が溜まったところを車が通ると波が起こり、1 mくらい水が家の中に入ってきた。緊急時、通行止めの規制を掛けられないか。行政の窓口として検証してほしい。

(回答)

- ・大きな被害が出たところは、警察、土木事務所がすぐ通行止にする。しかし、対応する人間の手が足りない状況の中、さらにその他の場所では難しいと言える。
- ・警察、土木事務所から正式な要請があれば、個人で通行止のプレートを立てることもできるだろう。民間に委託しているところはある。水門の管理など。

(意見)

- ・基準を決め、すり合わせすることで、可能だとわかった。
- ・土嚢の積み方の指導はできないか？

(回答)

- ・防災士、地域の皆さんにも講習会をしている。確かに経験豊富な方の積み方は水がぬけない。

(意見)

- ・この地区にどのくらい防災士がいるか？
- ・防災士は経験がある人がなっているのか？

(回答)

- ・淡窓町は4人いる。市内では400～500人いる。
- ・呼びかけをしている。できれば、若い人になってほしいと思う。

(回答)

- ・土砂災害警戒区域の対象は咸宜地区にはないが、内水の氾濫がある。下水道事業だけでは想定外の雨が降ると対応できない。命に関わることはなくても、住宅の二階まで浸水しそうなどところがあるのか、地区内で検証してほしい。二階に避難する事で命を守れることがあると思うから。
- ・丸山町で24年災害の豪雨で大量の水が国道を通過って裏側から入ってきた。バイパスが拡幅しているところも怖い。県と国にもお願いしている。

- ・ H 2 4 年災害、H 2 9 年災害の経験を活かして、危険な場所の検証をしてもらいたい。
- ・ 今年 7 月の西日本豪雨で、玖珠川が氾濫しかけた。天瀬・小ヶ瀬には水が上がった。玖珠川にダムも貯水池もない。物理的に止めるすべがない。
- ・ 財産は守れなくても、命を守ってほしい。

(意見)

- ・ 城内川の途中の水門は誰が管理しているか？

(回答)

- ・ 水門は国交省管理、それから市の管理が 1 0 0 数か所ある。一般の市民の方をお願いしている。年度当初に管理の方法等を市役所で説明している。2 9 年度は職員がパトロールしたので、上流の水門は閉めたこともあった。

(意見)

- ・ 開けたり、閉めたりは指示するのか？
- ・ 緊急時はその人任せか？

(回答)

- ・ 説明会の際に状況で判断をお願いしている。
- ・ 電話して閉めていただいたか確認をしている。

(意見)

- ・ 水害でなくても勝手に開ける人がいる。

(回答)

- ・ 水門は市、国交省の他に改良区等の所管もあり、開閉については分からないこともある。

(意見)

- ・ 水が増えてきたら開けてもらいたいが、昨年 7 月 5 日に開けてない所があった。

花月川から城内川に流れる引き込み線はきちんとしている。職員の姿も見る。しかし、城内川は城内と三隈川、小ヶ瀬水路に降った雨が流れ込んでくる。閉めているか確認ができずに心配になる。

- ・ 水門管理者には指導の徹底をしてほしい。浸水しないように水門の管理はきちんとしてほしい。

(回答)

- ・徹底しているかの確認をしていく。
- ・大きな水門は大切。単費でも4, 5千万かけて自動で倒れるものをつくりたいと話している。国の下水道事業担当の方に補助金をお願いしている。
- ・人が足りない現状がある。水門を管理している方もストレスを持ちながらやっている。機械化、自動化できるなら、莫大なお金はかかるが、どうするかという課題の中で精査していきたい。

(意見)

- ・自主防災用品、購入の補助は何パーセントくらいか？

(回答)

- ・基本的に50パーセントは出ると思う。
- ・吹上町がトランシーバーを買った。これは劇的に機能している。ブラックアウトになったとき、自分の個別のバッテリーだけで飛べる無線の在り方がどれほど大きいインフラになっているか。
- ・ラジオ用の防災無線、情報は衛星から飛んでくる。そのような状況に変えていかないと有線は無理。携帯も有線なので繋がらない。しかし、7億かけて頑張って設置したとして、利用して管理が出来るかは問題もある。
- ・この導入しようとしているシステムは160～170の自治会単位で登録が出来、自治会の連絡はラジオで全部行える。自治会の高齢化で負担が増えるとコミュニティが維持できない。すると防災どころではなくなり、自分の事で精いっぱいになる。この課題を解決したいと考えてのことだ。

(意見)

- ・屋外拡声子局による放送は、現在、ほんとに聞こえない。

(回答)

- ・確かに聞こえないことがある。駅前に住んでいるがぜんぜんわからない。

(意見)

- ・キンコン、キンコン鳴ると気になる。鳴らない方が良くらい。

(回答)

- ・とりあえず、サイレンが鳴ることはそのまま活かす。鳴って気がついたときにラジオを聞いても

らう。最終的な情報、逃げることは自分たちで行動を起こさないと、直接聞いているか確認しているのではないので、その点は懸念がある。

- ・先程の自主防災に関する補助対象は、消防の道路、用地を除く経費5割、水槽も5割、防災用倉庫の新設・修繕枠は7割、防災訓練には上限3万円であるが全額補助、備蓄購入品も上限3万円はあるが5割、となっている。地域の実情に合わせ、町内で話し合い、選んでいただきたい。

(意見)

- ・役所のサイレンが聞こえない。音が変わった。以前は聞こえていたが、何故か？元に戻してほしいくらいだ。

(回答)

- ・全国的にデジタルで、そのような状況になっている。元には戻せない。サイレンだけを新しく新設するかということになるが、サイレンを聞くというより、結局は何を言っているかを聞いてもらう事が重要。だから防災ラジオで聞けたら良いと思う。
- ・水郷テレビには、音声告知端末があり、有線で情報を流していたが24年のとき上・中津江が断線して情報が届かなかった。今回も大鶴に情報が届かなかった。有線では発生している所には情報が届かないことになる。

(意見)

- ・わかるが、サイレンさえ聞こえれば、何かがおきてる！気を付ける！という気持ちになる。全然聞こえないから、気を付けようがないのだと思う。
- ・行方不明の人の捜索にも役立つだろう。

(回答)

- ・今後、ラジオで一元化していく。すべての方に情報が伝わるようにしたい。
- ・確かに、アナログのほうが良かったということもあるが、消防についても、県下統一だとか、さらなる広域体制にしてしまうなどある。これが機能するかということは考えなければいけない。
- ・消防指令所を更新するにも10億というお金が必要になる。個別が良いか、まとめたほうがリスクが少ないのか等、今後考えていきたい。